

4月25日（月曜日）

おはようございます。

先週の週末に外国人差別的な発言をしてしまった生徒がいましたので、指導を致しました。差別とかヘイトスピーチとかすることのないように気をつけてもらいたい。今回はそういうことではなく、ちょっとおちよくって言ったということなのですが、それもよくないことです。

21世紀は問題を話し合いで解決していこうというのが、日本が目指す方向性です。実際に戦争を起こさないで問題を解決していこうとするためには、話し合いで解決していく力をつけていかなければなりません。それはディベートが上手になるということではありません。お互いに対等の目線で話し合えるかということが大切なことです。差別というのは議論をする前から、私が高くてあなたは低いと、結論が出ています。こういう前提が初めからある場合、問題は暴力でしか解決できないのです。人間は、それぞれに思うところがあり、お互いに主張があるわけですから、対等の目線で話し合うことが大切なことです。こういうことがグローバル人材の育成にとって大切なポイントなのです。

この前、WCRP 世界宗教者平和会議というのがあり、日本の実質的な責任者の酒井さんという方とお話しをする機会がありました。WCRP の本部はニューヨークにあり、ベントレイというアメリカ人が、事務局長をやっています。この平和会議が音頭をとってイランとサウジアラビアの宗教指導者同士の話し合いを打診したのです。

サウジアラビアの人々は、もとは自分たちのことをワッハーブ派と言ったのですが、最近ではそう言いません。なぜかというと、ワッハーブ派というのは原理主義でテロに関わる人たちを多く生んだからです。サウジアラビアの一般の人は今ではスンニー派と答えます。サウジアラビアでシーア派の指導者の、ニブル氏という人がテロに関わったということで処刑されたのです。それに対してイランは、シーア派であり、シーア派の有名な指導者を殺したというので怒って、サウジアラビアの大使館を民衆が襲ったのに、これを国（イラン）が止めないという事態が起きました。それがきっかけとなってサウジアラビアとイランは国交を断絶しました。これは大きな国家間の争いですし、中東は IS 等の問題もありますから、一歩間違えると大戦争になる危険があります。そうすると石油が輸入できなくなることにもなりかねない。場合によっては世界大戦につながるという危険もあるという経緯がそこにはあるわけです。

そこで、打診をしたら、サウジもイランも日本であつたら話し合

うと答えたという。他の国であれば、どちらかの国に比重をおいている可能性があるけれども、その点日本は平和主義の国であるから両者に対して公正であると考えたのです。それで、5月26日に東京で話し合いをするそうです。

僕はかつて WCRP の京都大会に出させてもらいました。それは、ユダヤ教のイスラエルの宗教指導者とアラブの宗教指導者との話し合いの場でしたが、お互いにつかみ合いの喧嘩になるのではないかと思うほどの勢いでした。一方が話していたら、他方は外に出ていってしまうのではないかと思うくらいでした。しかし実際はそうはならなかった。議論すると、ものすごい言い合いになるのですが、相手が話すときは、きちんと黙って聞いている。そのとき感動したのは、長い歴史上の問題はいろいろあったのだけれども、両者がともにやはり話し合いで解決しなくてはならないと、本気で思っているところでした。今度のサウジとイランの宗教指導者もお互いに思うところはいろいろあるだろうけれども、政治指導者にも影響力ある二人が、話し合いで解決できるような場を作ろうとしていて、日本なら公正にやってくれるだろうと思い日本を選んだのです。

このように 21 世紀は問題を話し合いで解決していかなくてはいけない時代なのです。ダライラマ法王がおっしゃっていた通りです。そのためにはお互いが対等の立場で、対等の目線で話し合うというのが前提です。自分を高いところにおいて、相手を低くみる差別やヘイトスピーチをするような視線というのは国柄としては大変危険なのです。話し合いで解決する気がなく、結局は暴力で解決するしかないからです。世界の潮流も話し合いで解決しようとしています。サウジアラビアもイランも日本で話し合うのであればいいと言うのは、日本が公平な国柄であるという信用があるからです。諸君たちは 21 世紀のリーダーになっていかなくてはならないのですから、差別こそが、話し合いによる問題解決の最大の障害になるのだということを肝に銘じなくてはなりません。

それにはぶれない軸も必要ですし、自分への自信もなくてはなりません。諸君でも何か問題をおこしてしまったら、すぐに話し合いで解決したらよかったと言うじゃないですか。そのように、話し合いで解決するということは簡単ではないのです。だから暴力を使ってしまうのです。対等の立場に立ち、対等の目線で粘り強く話し合っていくことができるかということこそが、教養であり、信用なのです。差別意識をもつ危険性を重々心得て日常生活を送ってもらいたいと思います。

さて話は変わりますが、諸君たちから届けられた善意を明日の午

後に熊本の国府高校へ持って行こうと思っています。先方の学校に電話もしました。校長先生は大変喜んでいらっしゃいました。博多までは新幹線があります。しかしそこから先は、「つばめ」という新幹線が通っているものの、不定期で時間がどうなるかわからないということです。明日午後から出発しようと思っています。まだ募金中のクラスがありましたら、ほんの少しのお金で結構ですからよろしくお願いします。お金は決して無駄にはなりません。現在学校は避難所になっていて、体育館に100人以上の人たちが避難されていると聞きました。私は「生徒のすることですから大きなことはできないですよ」と申し上げましたところ、「その気持ちだけで嬉しいです。そういうお話を聞いただけで元気になります」とおっしゃっていました。できるだけ速く諸君たちの気持ち、その善意をお届けしようと思いますので明日行ってきます。まだのクラスがありましたら、今日の昼休みまでお願いします。

今朝の話はこれで終わります。

学校長